



福祉のしごとフェア就職面談会を開催

11月11日は「いい日、いい日、毎日、あったか介護ありがとう」と親しみやすい語呂合わせで、国民に対して介護についての理解と認識を深め、介護サービス利用者及びその家族、介護従事者等を支援するとともに、地域社会での支え合いや交流を促進する観点から、高齢者や障害者等に対する介護に関し、国民への啓発を重点的に実施する日として「介護の日」が定められました。

本会福祉人材センターでは、11月4日～11月17日の「福祉人材確保重点実施期間」にあわせて、福祉・介護の理解を深める普及啓発と福祉人材の確保・定着へ向けた取り組みを関係機関と連携し行っています。

今年の新庄市を皮切りに、米沢市、山形市、酒田市の県内4会場で「福祉のしごとフェア（就職面談会）」を開催しました。

介護就職デイ「介護のしごと」面談会（新庄）

11月7日にハローワーク新庄で高齢者福祉事業、障害者福祉事業を行っている6か所の事業所から参加いただき開催しました。

当日はあいにくの雨模様でしたが昨年とほぼ同程度の18名から御来場いただきました。面談する事業所を予め絞り込んで参加されたためか、一人当たりの面談箇所数は1.8か所（前年比0.5減）となりました。今年初の試みとして、福祉施設の職務経験や資格の有無、どの職種どんな話を詳しく聞きたいかを参加者が予め書いた「面談補助シート」を用意し、それを最初に事業所に見せてから面談を行っていただきました。事業所からは「大変助かった」「現在のわかりやすくてよかった」「現在の

状況が一目でわかりスムーズに面談に入れた」といった好意的な意見をいただきました。求職者の皆様もカードを提示することで聞きたいことを予め示すことができ効率的な面談につながったようでした。

福祉のしごとフェア就職面談会（米沢）

11月9日グランドホクヨウを会場に開催しました。新型コロナウイルス感染症の法律上の位置づけが「5類感染症」となり、イベントを行う上での人数制限がなくなったこともあり、昨年より4か所多い23の事業所から参加いただきました。

来場者は51名と昨年の2倍以上の方がお越しになりました。昨年は1か所あたり10分の時間制限を設け完全予約制で実施しましたが、今年は時間制限を設けず予約制も行わなかったこともあり一人あたり1.8か所（前年比0.2増）の事業所と面談をされました。

相談コーナーも積極的に活用され、特に福祉人材センターには7名（前年比6名増）から相談があり、そもそも福祉にはどんな仕事があるのか、資格は無くても働けるのか、資格不要の求人は出ているか、資格はどうしたらとれるかといった相談をされた後に、自分が気になった事業所と面談されていました。



福祉のしごとフェア 就職面談会（山形）

11月14日に山形ビッグウイングで70か所の福祉事業所から参加いただき開催しました。

事業所の特色をアピールする職場PRタイムには多くの参加者が集まりました。各事業所のアピールポイントを知りアピールしていた方々の雰囲気を感じ取ることで、この事業所と面談しようかを決め、その後の個別面談で業務内容や働き方等より具体的な内容を相談していたようでした。その他福祉関係図書やDVDの上映、KAiGO



PRIDEの写真展示や各種相談コーナー、障がい福祉サービス事業所で作ったお菓子などを販売するふれあいマーケット

福祉のしごとフェア 就職面談会（酒田）

11月22日に酒田勤労者福祉センターで16か所の事業所から参加いただき開催しました。

「その人がその人らしく生きることを支える」「夢や希望を叶える」仕事である介護の魅力を発信すべく、一般社団法人KAiGO PRIDEアンバサダーであり、現役の介護職員であるテイホーム眺海の石川貴氏より「KAiGOのしごとの魅力」だから私は介護職員になりました」と題し、ご講演いただきました。「介護職の入口は広い。いろんな人がいろんな経験を活かせる仕事」「職員も利用者もお互いへ気にかける。魅力は日常につまっ

ている」時間によってその場面によって接し方を考える。日常のやり取りがクリエイティブ」「介護職は直接ありがたいと言われる仕事」といった御自身の経験から感じたこと等を講演や動画を通じて来場者の皆様へお伝えいただきました。

講演を聞いた参加者からは「医療・福祉の仕事にまた戻りたいと思った」「やりがいのある仕事であることを再確認した」「自分のやってきた介護の意味を改めて感じることができた」などの感想が寄せられました。

来場者数は19名と昨年より若干下回りましたが1人あたり2・2か所（昨年同様）の事業所と面談をされていました。

各フェアの来場者からは、「現場の状況、仕事内容、注意点を聞かせてもらい有意義だった」「求人票ではわからない部分を聞いて良かった」「相談コーナーを利用することでとてもリラックスできた」などの声が寄せられ、一人でも多くの方が採用に結び付くことを期待するところ



です。介護・保育分野の人材確保においては、厚生労働省、子ども家庭庁から、より一層ハローワーク、福祉人材センター等関係機関が連携することが求められています。本会福祉人材センターでは引き続き山形労働局、県内各ハローワーク、介護労働安定センター山形県支部、山形県看護協会・山形県ナースセンター等と連携して福祉人材の確保・定着へ向けて取り組んでまいります。